

平成29年度

授業改善推進プラン



文京区立本郷台中学校

平成29年度 文京区立本郷台中学校 授業改善推進プラン

第1学年

教科	生徒の現状・指導上の課題分析	基本方針・指導の在り方	授業改善の視点	授業改善の具体策
国語	<ul style="list-style-type: none"> ○全体的に関心・意欲、そして能力が高い。 ○「話す・聞く」力に若干課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○目標を明確にし、生徒がめあてをとらえて主体的に学習できる指導を行う。 ○1単位時間ごとの目標を明確にし、授業をデザインする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○一人一人の学びの達成感や課題意識をさらに引き出す。 ○学習状況に応じて学習形態を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○毎回、ノートに本時の振り返りを記入させる。 ○一斉授業、グループワーク、ペアワークなど学習形態を工夫し、意欲と能力を高める。 ○聞き取りテスト等を通して聞く力を高める。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎的、基本的な学習内容の定着度に個人差があり、努力を要する生徒が見られる。 ○積極的に発言をしようとしたり、作業などにもきちんと取り組もうとしたりする意欲的な生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎的、基本的な学習内容の一層の定着を図る。 ○考えさせる内容の課題に取り組みせ、社会的な思考の伸長を図る。 ○課題を考察した結果を発表させることで、表現力の育成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業の中で、基礎的、基本的な学習内容の定着をはかる時間を増やす。 ○生徒が、自ら学習課題を追究し、考察した結果を、自分なりの表現で発表できる機会を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ○小テストや学習ワークの活用などを通して、基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。 ○授業中の発問やワークシートの内容を工夫し、社会的な思考の伸長を図る。 ○グループ討論形式の授業を通して、表現力の育成を図る。
数学	<ul style="list-style-type: none"> ○授業評価アンケートでは、全体の80パーセント以上の生徒が意欲的に授業に臨み、事前の課題も積極的に取り組んでおり、関心・意欲が高い。 ○根拠を明確にして説明する力に課題がある ○区学力調査の結果では、全領域において、区の目標値および平均正答率を上回っているが、問題別にみると、資料やグラフから必要な情報を読み取る力に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○1時間毎の授業のテーマと目標を明確にして、日々振り返りができる授業ノートをつくる。 ○少人数授業の特性を生かして、毎回多くの生徒に発問し、生徒の理解度を点検する。 ○基礎基本の徹底だけでなく、発展的な学習もこまめに取り入れ、課題解決型学習を導入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○個々の生徒の学ぶ意欲や課題を解決する意識を向上させる。 ○単元毎に、学習形態を工夫する。 ○言語活動を充実させた授業を実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○単元テスト以外にも定期的に小テストを実施する。 ○グループ学習などを適宜取り入れ、資料から数量の関係を読み取るなどの課題解決学習を行い、自分の考えを発表する機会を多くつくる。

教科	生徒の現状・指導上の課題分析	基本方針・指導の在り方	授業改善の視点	授業改善の具体策
理科	<ul style="list-style-type: none"> ○全体的には観察・実験に意欲的に取り組み、関心・意欲が高い生徒が多い。 ○小学校での基礎的な知識を身につけている生徒が多いと感じられる。しかしその一方で小学校での取り組み方の違いなどから、基礎・基本がしっかりと定着していない生徒も数名いるので、力の差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の興味・関心を喚起する。 ○基礎・基本の学習の定着を図る。單元ごとに確認テストを実施する。 ○実験・観察の技能を身につけ、科学的な思考・判断・表現力を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○演習の時間を増やし、基礎・基本の学習の定着を図る。 ○実験・観察のまとめおよび考察の指導で、発問を増やし、筋道を立てた表現・科学的な考え方の育成を強化する。 ○知識の定着に課題がある生徒に対し、T・Tを活用して、補強を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の目や手で体験・確認する場を多くする。 ○小テストなどをこまめに実施する。 ○実験・観察の目的を明確にし、予想を立てて実験に取り組み、考察が深められるように指導する。 ○日常の身近な現象と関連づけ、より深く理解させる。 ○T・Tを活用して、個に応じた助言・指導を行う。
英語	<ul style="list-style-type: none"> ○小学校から英語に慣れ親しんでいるため、リスニングやスピーキングの能力が高い。 ○文法事項や語彙などの基礎の部分を徹底することが大切である。 ○英語を「書く」「読む」事に慣れ親しむ事が課題として挙げられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○コミュニケーションへの意欲を高める。 ○コミュニケーション能力の基礎を養い、その定着を図る。 ○英語を「書く」「読む」事に慣れ親しみことで、その初歩的な力を身につける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○コミュニケーション活動を多く取り入れる。 ○学習したことの振り返り活動を行い、コミュニケーション能力の定着を図る。 ○読む活動や書く活動を充実させ、生徒に達成感を感じさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○英語を使ったゲームを行い、コミュニケーションを楽しいと感じさせる。 ○授業の目標を明確にし、生徒自身に何ができるようになったかを、プリントや発表活動などを通じて確認させる。 ○英文を読み書きする際のポイントを生徒に伝え、読むことや書くことに慣れ親しませる。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ○歌唱、器楽、鑑賞など各領域とも関心意欲が高い。男子は男声の低音域の発声に少しずつ慣れてきた。女子は頭声発声ができる生徒が多く、パート練習では話し合いもできている。 ○音楽用語などの知識理解は、出身小学校によって差があったが、期末考査に向けた取り組みで、全体的に身についた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○パートリーダーの育成を図り、主体的に学習ができるようにする。 ○歌唱、器楽、創作、鑑賞など各領域をバランス良く指導する。 ○合唱コンクールや授業内発表など、一つ一つの学習項目に目標を持たせ、達成感を味わえるような流れをつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○発声やアルトリコーダーの運指、音楽理論などの基本的な技能の指導を行う。 ○それぞれの生徒が自分の思いや意図をもって表現ができるように工夫する。 ○グループ学習、ペア学習を通した主体的な学習ができるように指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○各学習の目標や視点を明確にする。 ○教材や教具を充実させる。(楽曲教材やAV機器、アクティブボード、CDデッキなど) ○リーダーの育成を図る。 ○個人達成カードを使用する。

教科	生徒の現状・ 指導上の課題分析	基本方針・ 指導の在り方	授業改善の視点	授業改善の具体策
美術	<ul style="list-style-type: none"> ○意欲的な生徒も多く見られるが、自分で考えて行動する積極性に欠ける。 ○美術という教育の必要性を感じていない生徒も多く、表現が乏しい生徒に対して何らかのアドバイスを与える場面を増やす必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒が主体的に創作活動に取り組める授業作りを行う。 ○基礎的・基本的な事柄に重点を置き授業を進める。 ○豊かな発想と新しい発見を促すための工夫と助言を行う。 ○ポスターという課題を通して、自分の考えや意見を伝えるための語彙と表現力を身につける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○手順やねらいをもっと明確に生徒へ伝える工夫をする。 ○実物を見せ、感じたことをそのまま表現につなげる工夫をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○正しく文字や字体が使えるようにする。 ○色彩を豊かに使えるようにする。
保健体育男子	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎的・基本的な運動能力が定着できていない。 ○話を聞く態度をはじめ、授業規律がまだまだである。 ○一斉指導が多くなりがちである。 	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎的・基本的な事柄を重点に授業を進める。 ○興味・関心をもたせ、意欲的な態度や集中して話を聞く態度を身に付けさせ、また、そのような授業展開を工夫する。 ○個人個人への助言を心がける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○集団での授業規律を定着させ、体づくり運動を導入時に行う。 ○個別への指導の時、言葉かけを工夫する。 ○自らの課題を見つけ、その解決の手立てを考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○集団での統一した動きを身に付けさせ授業での時間短縮に生かす。 ○T・Tを活用し、個人個人への指導を工夫する。 ○学習ノートを利用し、生徒自らの課題発見と解決を促す。
保健体育女子	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎的な体力・運動技能が身に付いている生徒とそうでない生徒との差がある。 ○授業にはまじめに取り組んでいるが、意欲が乏しい生徒もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○話をしっかりと聞き、行動に移すことのできる授業を展開する。 ○常に目標を立てながら計画的に学習できるための支援を行う。 ○個々の能力に合わせて助言、支援を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ○自己の課題を認識し克服する態度を育てる。 ○準備運動時に補強トレーニングや柔軟運動を取り入れ体力の向上を図る。 ○生徒個人を複数の目で捉え、指導を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習ノートなど、自己の課題が克服できているか記入させ助言指導していく。 ○技能テストを単元ごとに行い、どの程度身につけているか確認し助言、指導していく。 ○教師間の打ち合わせを密にする。

教科	生徒の現状・ 指導上の課題分析	基本方針・ 指導の在り方	授業改善の視点	授業改善の具体策
技 術 ・ 家 庭	<ul style="list-style-type: none"> ○作品製作に向かう意欲はあるが、作業の正確さにやや欠ける生徒がいる。 ○課題のプリント、教科書等の知識が定着しない生徒がいる生徒がいるため、作業の速度に差が出ている。 ○ミシン、アイロン、調理器具などの扱いについて経験が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎的な知識や基本的な技能を定着させる指導をする。 ○作品を作り込む意識を持たせる指導をしていく。 ○学習意欲を向上させる適切な助言をしていく。 ○補習時間を設け、作業時間を確保する。小グループや個別指導により細やかな指導をしていく ○生徒が興味をもてるよう、生活に生かせる題材を考える。 ○日常の家庭生活と結びつけて、技能を修得させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的な技能の習得を図る。 ○作り込む意識を継続させる。 ○基礎的な知識や原理を理解させる。 ○日常の生活の中に、学習したことを実践していけるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○作品製作の取り組みにおいて、可能な限り個々に応じた指導を行う。 ○ICTを活用した授業を実践する。 ○ミシン、アイロン、調理器具などの扱い方の経験を高めるために、家庭との連携を行う。 ○興味・関心を高めるためにビデオ、DVD、パソコンなどによる学習を導入する。

平成29年度 文京区立本郷台中学校 授業改善推進プラン

第2学年

教科	生徒の現状・ 指導上の課題分析	基本方針・ 指導の在り方	授業改善の視点	授業改善の具体策
国語	<ul style="list-style-type: none"> ○学習に対する意欲はあるものの、基礎・基本の知識が身につけていない生徒が多い。漢字に関しては、小学校の復習が必要な生徒もいる。 ○古文や漢文には苦手意識をもたずに取り組む生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○漢字など定期的に小テストを実施し、基礎、基本の知識の定着を図る。 ○生徒が主体的に学ぶことのできる言語活動を取り入れた授業を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎・基本の定着を狙った活動を増やす。 ○言語活動を多く取り入れ、「話すこと」や「書くこと」に慣れさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○漢字テストだけでなくワークの漢字や語句のページを授業でも利用し、語彙を増やす。 ○一斉授業、グループワーク、ペアワークなど学習形態を工夫し、意欲と能力を高める。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ○社会的事象に対して関心をもち、主体的に学ぼうとしている。 ○基礎的・基本的な内容が確実に定着していない。 ○習得した学習内容が日常の社会生活と関連付けられていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の実態を把握して、到達度目標を明確にするとともに、生徒の興味・関心を喚起し、目標達成に向けて段階的・系統的な指導をする。 ○日常の社会生活と関連付け、具体的事項を通して指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○資料から必要な情報を正確に取り出し、比較して読み取る力を育てる。 ○基礎的・基本的な内容の定着を図りながら、社会的な思考・判断・表現の育成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○資料の読み取りを必要とする内容の発問を増やす。 ○定期的な小テストの実施などにより、基礎的基本的な学力の定着を図る。 ○電子教科書を活用した授業を取り入れ、資料の適切な活用を見つけさせ、発問内容なども工夫し、社会的思考の育成を図る。
数学	<ul style="list-style-type: none"> ○授業評価アンケートでは、全体の80%の生徒が授業に意欲的に臨んでいるが、約20%の生徒が学習した内容の復習や指示した課題にしっかり取り組めていない。また、基礎・基本が定着していない生徒もいる。 ○理解度に応じた課題の出し方を工夫し、復習を中心とした家庭学習の習慣が身に付いていない生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎コースでは、基礎基本の定着を図り、計算処理の確実性を追求する。また、個々の理解度に応じた発問を工夫し、発言の場を設けることで、数学への関心意欲を高める。 ○発展コースでは、計算処理能力の向上を図るとともに、発展課題にも意欲的に取り組みさせる。また、数学的な活動において、言語活動の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○個々の生徒の学習意欲や課題にしっかり取り組む意識を向上させる。 ○問題を解く技能の定着を図る。 ○数量・図形などの知識・理解を深化させ、問題解決の場面で適宜活用できるようにする。 ○数学的や見方・考え方を育成するとともに、表現する力も伸ばしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○定期考査や単元テストの結果を分析し、生徒の実態に応じた教材や授業の進め方を工夫する。 ○授業観察やテスト、課題の提出状況を通して、個々の課題を確認し、目標を設定させることで、学習意欲の向上につなげる。 ○発問の仕方を工夫することで、生徒が意欲的に発言したり、生徒同士が意見を交わしたりする授業を確立する。

教科	生徒の現状・ 指導上の課題分析	基本方針・ 指導の在り方	授業改善の視点	授業改善の具体策
理科	<ul style="list-style-type: none"> ○全体的には観察・実験に、意欲的に取り組んでいる。 ○小学校での基礎的な知識を身につけている生徒と定着していない生徒の力の差が非常に大きい。 ○苦手な問題や課題に対して自主的に取り組めない生徒が多い。 ○レポート等で自分の考えを表現し、まとめる力のある生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の興味・関心を喚起する。 ○基礎・基本の学習の定着を図る。單元ごとに確認テストを実施する。 ○家庭学習の習慣を身に付けさせるために、課題を定期的に提示する。 ○実験・観察の技能を身につけ、科学的な思考・判断・表現力を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○演習の時間を増やし、基礎・基本の学習の定着を図るとともに、応用力の向上も図る。 ○実験・観察のまとめおよび考察の指導をおよび考察の指導で、発問を増やし、筋道を立てた表現・科学的な考え方の育成を強化する。 ○知識の定着に課題がある生徒に対し、T・Tを活用して、補強を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の目や手で体験・確認する場を多くする。 ○小テストなどをこまめに実施する。 ○実験・観察の目的を明確にし、予想をたてて実験に取り組む、考察が深められるように指導する。 ○T・Tを活用して、個に応じた助言・指導を行う。
英語	<ul style="list-style-type: none"> ○英語に対する関心意欲が高い生徒が多い。 ○「読む力」「聞く力」は向上しているが、基礎の定着が課題である。 ○「話す力」「書く力」に苦手意識のある生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○英語における4技能をバランスよく身につけさせる。 ○文法事項の基本の復習を徹底する。 ○語彙力の充実を図る。 ○簡単な英語で、自己表現ができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒が主体的に学習できる環境をつくる。 ○「話す力」を伸ばすために、スピーキング学習活動を増やす。 ○「書く力」を伸ばすために、ライティングの学習活動を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ○英語のスピーキングシートを学習に取り入れ簡単な英語での会話を増やす。 ○英作文プリントを学習に取り入れ、簡単な英文から書く力を伸ばす。 ○ALTと連携し、4技能を交えた授業構成や場面設定となるようにする。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ○歌唱領域では昨年より意欲的に発声できる生徒が増えた。 ○器楽ではアルトリコーダーの運指が複雑になると苦手意識が出る生徒がいたので、2学期以降、ペアワークや個人指導でなくしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○パートリーダーの育成を図り、主体的に学習ができるようにする。 ○歌唱、器楽、創作、鑑賞など各領域をバランス良く指導する。 ○合唱コンクールや授業内発表などで目標を持たせ、達成感を味わえるような流れをつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○発声や音楽理論などの基本的な技能の指導を行う。 ○思いや意図をもって表現できる工夫をする。 ○グループ学習、ペア学習を通した主体的な学習の指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○各学習の目標や視点を明確にする。 ○教材や教具を充実させる。(楽譜教材やAV機器、アクティブボード、パートCDなど) ○リーダーの育成を図る。 ○個人達成カードを使用する。

教科	生徒の現状・ 指導上の課題分析	基本方針・ 指導の在り方	授業改善の視点	授業改善の具体策
美術	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎的な技能は全体的に高いが、発想力に欠ける。 ○課題に対して意欲的に取り組む生徒が多いが集中力を持続させる指導が必要なこともある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒が主体的に創作活動に取り組める授業作りを行う。 ○基礎的・基本的な事柄に重点を置き授業を進める。 ○豊かな発想と新しい発見を促すための工夫と助言を行う。 ○ポスター制作を通して、自分の考えや意見を伝えるための語彙と表現力を身につける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○豊かな発想や想像力を高めるための指導を工夫する。 ○作品完成までの見通しをもたせ、自主的に制作するための指導を行う。 ○立体作品の制作を通して、具体的な人間の造形を理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○課題内容のより一層の理解のため、授業の事前準備を工夫する。 ○日本の文化遺産としての奈良・京都の寺院について学習する。
保健体育男子	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎的・基本的な運動能力が身に付いていない生徒が多い。 ○全体的にはまとまりが見られるようになってきた。 ○集中力に欠け、落ち着きのない生徒が何人か見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎的・基本的技能を身に付けるために、何度も繰り返す反復練習の大切さを理解させ実践する。 ○意欲的な態度になるための、声かけ・言葉かけ・評価を工夫する。 ○授業の中での約束事・決まりを理解させ実行させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒に授業の見通しをもたせ関心・意欲につなげる。 ○基礎・基本定着のために指導法を工夫する。 ○生徒自らに、その単元での課題をもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○各単元のはじめに授業の計画を説明し、また一時間の授業でも内容を導入時に説明する。 ○T Tを活用した個別指導を工夫し、反復練習を実践させる。 ○学習ノートを利用し自らの課題を明確にさせる。
保健体育女子	<ul style="list-style-type: none"> ○授業の準備、開始時の集合整列をはじめ、規律の部分は改善が見られてきた。 ○体力・運動技能を満たしている生徒は少数で、低下傾向が目立つ。 ○知識・理解の定着はまだみだである。 	<ul style="list-style-type: none"> ○開始時間までの集合整列をはじめ、規律ある行動をとらせる。 ○自らの課題を見つけ興味関心の持てる授業を展開しながら、体力の向上を目指す。 ○生徒個人への助言・支援を実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒自らが主体的に授業を開始できるように指導を徹底する。 ○準備運動に体づくりを取り入れ、体力の向上を図る。 ○個々の生徒により多く助言し、課題を明確にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○係生徒をリーダーとして、準備運動を生徒主体で行えるように指導する。 ○学習ノートを活用し、課題の発見解決の手立てとする。 ○T Tを活用し、生徒の多面的に捉え理解に努める。

教科	生徒の現状・ 指導上の課題分析	基本方針・ 指導の在り方	授業改善の視点	授業改善の具体策
技 術 ・ 家 庭	<ul style="list-style-type: none"> ○作品製作に意欲的に取り組む生徒が多い。 ○技能面を苦手とする生徒がいる。 ○家庭生活の中の経験が不足している。 ○学習したことを生かして、生活の中に取り入れる機会が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎的な知識と基本的な技能が定着を図る。 ○学習意欲の向上のため、適切な助言をする。 ○補習時間を設け、作業時間を確保する。小グループや個別指導により細やかな指導をしていく ○長期休業中などを利用して、献立作成や調理に挑戦させる。 ○実践的、体験的な学習活動を通して家庭の機能について理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的な技能を習得させる。 ○基礎的な知識や原理を理解させる。 ○作品を作り込む意識を保持させる。 ○かんたんな食材を用いて、食品の扱い方になれる。 ○長期休業中の宿題として取り入れていきたい。(献立のたて方、実習、考察、レポート) 	<ul style="list-style-type: none"> ○作品製作の取り組みにおいて、可能な限り個々に応じた指導をしていく。 ○ICTを活用した授業を実践する。 ○家庭生活の中での経験が不足している現状をなくすために、家庭との連携を行っている。 ○授業で製作する作品について生活に活かせるものを題材にできるように工夫していく。

平成29年度 文京区立本郷台中学校 授業改善推進プラン

第3学年

教科	生徒の現状・ 指導上の課題分析	基本方針・ 指導の在り方	授業改善の視点	授業改善の具体策
国 語	<ul style="list-style-type: none"> ○多くの生徒が授業に意欲的に取り組み、外部の試験などでも成果を上げている。 ○話すこと（表現する力）、に関しては個人差が大きく、書くことに関しては苦手意識のある生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○どの文章に関しても想像力を働かせながら読むことができるように指導する。 ○生徒が主体的に考え、活動できるような授業を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○どんな文章でも抵抗なく読むことができるような指導を行う。 ○書く力を意識した授業を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校図書館や副教材などを使って、様々な文章に触れる機会を増やす。 ○毎回の授業の中で自分の考えを書いたり、お互いに書いたものを読み合ったりして、考えを深める時間を設ける。
社 会	<ul style="list-style-type: none"> ○落ち着いて学習に取り組んでいるが、主体的に学習していない生徒もいる。 ○現代の社会的事象を相互に結び付け、その意味を捉えることができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○既習事項に基づいて生徒に考えさせるような発問から授業をスタートさせる。 ○目的意識をもって学習に取り組めるよう、学習課題や問題を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○資料に親しみ、有用な情報を適切に選択して正確に読み活用する機会を多くする。 ○学習課題を追求し、考察した過程や結果を表現する機会を多くする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○資料の読み取りを必要とする内容の発問を増やす。 ○身近な問題をテーマとしたグループ討論など、生徒自らの考えを表現できる場をさらに多く設定する。
数 学	<ul style="list-style-type: none"> ○ほとんどの生徒が、学習意欲をもって取り組み、基本的な計算等の技能の定着はしている。 ○数学的な思考を要する課題に対しての、意欲・取り組み方、解決する力に大きな差がある。 ○進路選択をふまえての個々の学習課題、方法の考察が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○習熟度別少人数制、基礎コースでは、基礎・基本の定着から発展的な課題への取り組みを行う。発展コースでは、基礎・基本の確認から、徐々に難易度の高い課題への取り組みを行う。 ○進路を視野に入れて、個々の目標を設定し、課題に取り組めるように促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「学ぶ意欲、数学への関心」を向上させる。 ○「数学的な見方・考え方」の育成を図る。 ○「問題を解く技能」の定着を図る。 ○「数量・図形などの知識・理解」を深化させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○各授業では習得を目指す項目(ねらい)を明確にし、授業のまとめで確認を行う。 ○ワーク・プリント・ノート等の提出を通して、個に応じた課題(つまづき)の確認をし、個々の目標設定を行う。 ○基礎基本の定着のための反復練習用ワークシート及び、難易度別のワークシートを作成・実施し、数学的な思考力の育成を図る。

	生徒の現状・ 指導上の課題分析	基本方針・ 指導の在り方	授業改善の視点	授業改善の具体策
理科	<ul style="list-style-type: none"> ○知識・理解に関する観点については高いレベルにある。 ○科学的な思考や自分自身の考えを述べるのが苦手である。 ○実験について興味をもって、取り組むようになってきたが、先を見据えて想像力を持つことが苦手である。 ○計算問題や演習問題への経験が少なく、苦手意識がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○単元ごとに確認テストを実施し、知識の定着を図る。 ○探求心を育てる教材の開発をし、視聴覚教材を充実させる。 ○実験や観察の機会を増加する。 ○常に自分の言葉で表現できるような発問の工夫を行う。 ○演習問題や計算問題に取り組む機会を増やし、技能向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○レポートを作成する機会を多くつくり、自分なりの答えを導くことができるようにする。 ○人任せにせず、自分で手を動かして実験に取り組めるようにする。 ○既習の事実と結びつけた、実験計画を作成する。 ○問題を解くに当たり、考え方や知識の活用を意識した取り組みを図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○身近な題材を多く取り入れ、興味・関心を持てる実験・観察を行う。 ○画一的な評価ではなく、自分なりの表現ができた者への評価を高くし、やる気を育てる。 ○苦手意識のある問題や単元について、できるまで徹底するほか、放課後等の時間を利用して補習を実施する。
英語	<ul style="list-style-type: none"> ○授業中は意欲的に取り組み、課題などもきちんとこなす生徒が多い。 ○知識理解の観点において基礎力が身につけている生徒と定着していない生徒の差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○繰り返し学習をベースに、基礎基本の定着を図る。 ○4技能をバランスよく定着させ、自分の考えを表現できるようにする。 ○ALTの授業では、4技能をバランスよく取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○簡単な単語や文法を使って自己表現ができるようにする。 ○間違いを恐れず、まず英語を発することに重点を置く。 ○特にALTの授業では、自己発信力、受信力を高められるような場面設定を多く取り入れていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○文法・単語テスト、ペアワークやリーディングテストなどの機会を増やし、基礎力の充実と定着を図る。 ○ALTと連携し、色々な場面設定を工夫し、プレゼンテーションの機会を作ることで自己発信力や受信力を高め、バランス良く4技能が修得できるようにする。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ○歌唱など全体的に意欲的に取り組んでいる生徒が多い。音楽鑑賞教室に関したオーケストラについての学習にも興味関心をもって取り組んでいた。 ○創作において、楽譜の書き方が理解できていない生徒がいるので、その点が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○パートリーダーの育成を図り、主体的に学習ができるようにする。 ○歌唱、器楽、創作、鑑賞など各領域をバランス良く指導する。 ○行事や授業内発表など目標を持たせ、達成感を味わえるような流れをつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○発声や楽器の奏法、音楽理論などの基本的な技能が身につく指導を行う。 ○思いや意図をもって表現ができるような工夫を行う。 ○グループ学習、ペア学習を通した主体的な学習が行えるよう指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○各学習の目標や視点を明確にする。 ○教材や教具を充実させる。(楽譜教材やAV機器、アクティブボード、パートCDなど) ○リーダーの育成を図る。 ○合唱指導においては個人達成カードを使用する。

教科	生徒の現状・ 指導上の課題分析	基本方針・ 指導の在り方	授業改善の視点	授業改善の具体策
美術	<ul style="list-style-type: none"> ○全体的に学習意欲は高いが、苦手意識を持つ生徒もいくらか見受けられる。 ○発想・技能ともに個人差がある。 ○作品制作における表現活動は豊かな創造力を身につけている生徒もいるが、個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒が主体的に創作活動に取り組める授業作りを行う。 ○基礎的・基本的な事柄に重点を置き授業を進める。 ○豊かな発想と新しい発見を促すための工夫と助言を行う。 ○広く世界の諸作品を取り上げ、鑑賞させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自らの表現活動を肯定的に行える授業環境を作る。 ○制作の見通しをもたせ、意欲を引き出す。 ○美術の基礎となるべきことを体現できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○より多くの作品資料を提示し、制作に有用な資料を提供する。
保健体育男子	<ul style="list-style-type: none"> ○意欲的に取り組む生徒が多くなってきた。ただ、集中力に欠ける所が時々見られる。 ○体力、運動能力は徐々にではあるが向上がみられる。継続した取組で、より高い体力・運動能力の獲得が必要である ○少数ではあるが、落ち着きがなく集中力に欠ける生徒も見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○主体的に行動できる態度を養う。 ○基礎的・基本的な内容に重点を置きながら、発展的な内容にも取り組ませてみる。 ○生徒が身体を動かす場面を増やし活気ある授業を展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自己の課題を明確にし、克服する態度を育成する。 ○導入の段階での運動量をより多くする。 ○T・Tを効果的に実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習ノートを活用し、自らの課題やその時間の目当てを明確にする。 ○準備運動の時に補強運動や柔軟性を高める運動を取り入れ体力の向上を図る。 ○T・Tでの打ち合わせをと要望を積極的に行う。
保健体育女子	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎的、基本的な運動技能が身についてきたが、苦手な生徒も見られる。 ○授業には、学年全体がまじめに、進んで取り組んでいる。 ○苦手な生徒は、態度が消極的である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎、基本的な運動技能が身についてきたが、苦手な生徒も見られる。 ○授業には、学年全体がまじめに、進んで取り組んでいる。 ○苦手な生徒は、態度が消極的である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○準備運動時に補強トレーニングや柔軟運動を取り入れ強化する。 ○自己の課題を認識し、克服する態度を育てる。 ○T Tを活用し個人個人への働きかけを多くする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○技能テストを単元ごとに行い、どの程度身についているか確認し助言、指導していく。 ○学習ノートを記入させ助言、指導していく。 ○教員間での打ち合わせを密にし、息の合った指導を実践する。

教科	生徒の現状・ 指導上の課題分析	基本方針・ 指導の在り方	授業改善の視点	授業改善の具体策
技 術 ・ 家 庭	<ul style="list-style-type: none"> ○作品製作に向かう意欲がある生徒が多い。 ○課題のプリント、教科書等の知識が定着しない生徒がいる。 ○身近に幼児がいる生徒が少ない。(触れ合う機会が少ない) ○時間数が少ないため基礎的技術の習得が難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎的な知識や基本的な技能を定着させる指導をする。 ○作品を作り込む意識をもたせる指導をする。 ○補習時間を設け、作業時間を確保する。小グループや個別指導により細やかな指導をしていく ○実際に幼児と触れ合う指導をする。(幼児との触れ合いに関心をもたせる) 	<ul style="list-style-type: none"> ○作品製作において、基本的な技能を習得させる。 ○作り込む意識を継続して指導する。 ○基礎的な知識や技術やを実習・体験学習を通して習得させる。 ○幼稚園を訪問し、幼児と触れ合う。(課題をもたせる) ○授業の自己評価を行い、理解度を確認させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○作品製作の取り組みにおいて、可能な限り個々に応じた指導を行う。 ○ICTを活用した授業を実践する。 ○幼稚園を訪問して幼児と触れ合い、自分自身の成長を振り返るきっかけや幼児に合った接し方や遊びを工夫させる。